

もえぎ

井口ナツさん書

II II

Vol330
2019/11.15



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所 (二日町)
在宅療養支援有床診療所 (浦佐)



奥只見湖の紅葉

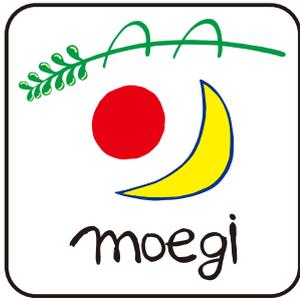
- 2P…季々雑感
- 3P…萌気会での地域医療研修を終えて
- 4P…漫画 黒岩卓夫一代記
- 5P…萌気100年プロジェクト
- 6P…社会福祉法人桐鈴会 駅前ハウス
- 7P…人生の幸せは後半にあり
- 8P…うちの利用者さん



11月24日(日)
びしゃもん茶房
(10時～12時)

行事予定 (11月15日～12月14日)

- 11月24日(日) 新潟いのちの物語をつむぐ会 第5回 長岡例会
- 12月2日(月)～30日(月) 東京慈恵会医科大学附属病院 研修医研修
- 12月13日(金) 令和元年度 萌気会大忘年会



季々雑感

萌気園二日町診療所 院長 皆川 秀夫



9月8日台風15号が千葉県を縦断、過去最大クラスとの予想だったが、もろに直撃をくらった地域はテレビの報道で見ての通りの惨状である。送電塔、電柱、大木がポキリと折れた様は暴風のすさまじさを思い知らされた。県南部、海沿いの地域が被害が大きく、屋根に大きな損傷を受けた家が多い。我が家も屋根の頂を覆う板金をはがれ大きくねじり切れ隣家に落下、傷んだ屋根から雨漏りする始末となった。停電は1日で回復した。近所でも屋根の被害が多く、修理に2週間かかった。台風の被害は子供の頃、伊勢湾台風の大雨で東京のゼロメートル地帯の我が家は床上浸水の被害にあった事以来であり、台風の災害は九州、沖縄の話で、関東に近付く頃は勢力を落とし温帯低気圧化、大きな損害はないと問題にしてなかった。

今回改めて巨大台風遭遇し、その猛威を目の当たりにして、日々の対策、備えの大切さを悟った次第である。こんなのが毎年来たらたまったものではないと思っていたら、さっそく台風19号が来た。直撃はまぬがれたが関東・信州の河川に大雨を降らし、大水害をもたらした。さらにその2週間後には次の台風がもたらした大雨で千葉、茨城、東北地方に再び大水害が発

生した。わずか半月で平年の1ヶ月分以上の降雨があり、打ち続く災害の連続で被害が拡大した。近年赤道付近の表面海水温が高いだけでなく、深い所まで高いままであるとの指摘がある。この為、大量の水分が台風の雲となってやってくると言われている。地球温暖化の影響か。

そう言えば先週から当地でもインフルエンザ罹患者が出始めたと思ったら、毎日数人ずつと増えてきた。季節外れの流行か。昨日はこれも季節外れの黄砂が飛来した。最近は想定外の異変がいつ、どこで起きてもおかしくない状況だ。行政には一層の治水、防災対策を求めると共に乱開発にも待ったをかけてほしい。もう右肩上がりの経済成長が望める時代ではないのだから。



理事長 コラム

死が恐ろしいのか。死に方が恐ろしいのか。

家族や親しい人が亡くなった。

何年もフォローしていた患者や利用者が亡くなった。

若い人の自死が知らされた。

障がい者が何人も殺された。

震災や津波でたくさんの方が亡くなった。

自分の死はどうなるのか。

中国文化大革命では1千万人も死んでいるという。

歴史学者・米シカゴ大学講師の王友琴さんは、「文革受難死者 850 人の記録」(集広舎)を出版した。

彼女は、シベリア抑留された詩人石原吉郎の言葉を引用して

「ジェノサイドのおそろしさは、一時に大量の人間が殺戮されることになるのではない。その中にひとりひとりの死がないことだ」と。とすれば、ひとりひとりの死が大切にされれば、死は恐ろしいものではないとみてよいのだろうか。さらに王さんは現中国政権を相手に、ジョージ・オーウェルの文言を借りて「過去を支配する者は未来まで支配する。現在を支配する者は過去まで支配する。」と述べている。

朝日新聞 2019.8.24 朝刊引用



萌気会での地域医療研修を終えて

東京慈恵会医科大学附属病院 研修医 ^{おう} 翁 ^{まき} 真希



往診風景



八海山登山

先に南魚沼市での研修を終わらせた研修医の先輩から、新潟の美味しい米が毎日食べられるよ、と甘い言葉をかけられ、お米が好き私としては魚沼一択！といったような不純な動機で新潟での研修を志望しました。10月31日に地域研修を終えて、振り返ればお米以上に大きな、たくさんの収穫があった1ヶ月でした。

地域を支えるのは医療だけではありませんでした。介護・福祉といった多方面での取り組みが互いに連携し合うことで、地域の人々を柔軟性と独創性をもって支えているのです。そしてこのシステムを成立させる為に、医師を含め様々な職種の方々が創造力と知恵を出し合い、関わられていることを実感しました。

これまで患者さんのお宅や施設を訪問し、生活を見せていただく機会はなかったので、恥ずかしいことに私は患者さんが病院外で日々の生活をどのように過ごされているかなんて想像もしたことがありませんでした。認知症の患者さんの内服管理を壁かけにして目につくようにしたり、身体障害を持つ患者さんが生活しやすいように家の内装をかえたりといった様々な工夫が施されていることを知りました。自分は病院以外の患者さんたちの生活にどのように関わって行けるだろう、創造力を働かせてこの課題に取り組まなければと強く思いました。

私が1ヶ月の研修の中で一番好きだった時間は、黒岩先生との訪問診療の時間でした。紅葉で色が変わって行く山々とどこまでも続く田んぼの風景をみながら、診療に行く道中で先生がしてくださる戦争の歴史や地域医療といった真面目な話から、熊がどこに出たとか、おすすめの新潟料理の話など様々な話を伺うことができ、とても贅沢な時間でした。また、訪問先の患者さんについてもどんな方で何が好きだとか、家族構成がどうだとかという話をしてくださいました。訪問先の患者さんが先生に会い、嬉しそうな顔をされるのを見て、長く構築されてきた暖かい信頼関係を感じました。黒岩先生は一人一人の患者さんの生きてきた道に真摯に向き合い、その方の道を一緒に歩こうとされている、すごい方でした。

これまでは先端技術と多くの研究員を抱えた大学病院での医療が最先端のものだと思っていた私ですが、萌気会の行っている人の人生・生活を支えるための地域に根付いた医療こそが、これから超高齢社会を迎えようとしている日本の抱える大きな課題に対する端緒ではないだろうかと思えます。

最後に、研修にかかわってくださった多くのスタッフの皆様へのお礼の言葉を綴らせていただきます。暖かい気遣いと人情味あふれるおもてなしをありがとうございました。おかげさまで、新潟・南魚沼の酸い(南魚沼市縦断駅伝大会での峠越えラン)も甘い(それ以外のすべて)も経験し、すばらしい研修となりました。八海山の山頂で食べたカレーの味は忘れられません。しばらくは新潟のお米を食べながら、皆様のお顔を思い出したいと思います。次は雪の降る季節にお邪魔させていただきます、お身体に気をつけてお過ごしください。



南魚沼市縦断駅伝大会

第三十二話
食事通学勉強



高1は兄と一緒に間借り(自炊)、高2から下宿となり、高3からは松本に。高2の冬から受験体制に入った。塾もないから学校の授業・教科書から、基礎づくりに重点をおいていた。受験科目は8教科だったと思う。
④ わかる事を少しずつ増やして、総合的に6割とれる自信をつければあとは運だとも考えた。

萌気100年 プロジェクト

第2回ワークショップに参加して
かんたき萌気 コム・ソフィ&ナース
管理者 若井 実栄治

わたなべ ひろむ 電通東日本 新潟支社
営業課所属
アカウント・プランナー

渡辺 宙夢



1992年新潟県新潟市出身。
大学のみ関東、新潟生まれ新潟育ち。

たかせき しげやす 電通東日本 新潟支社
ソリューション課所属
プランナー

高関 成康



1991年千葉県船橋市出身。
2019年から新潟市内在住。

10月15・16日に(株)電通東日本、渡辺様、高関様を講師に迎え、萌気100年プロジェクト第2回ワークショップを開催しました。

ワークショップの目的は、①萌気会が100年続いていくためのブランド(約束)を考える。②ブランド(約束)に沿った新規プロジェクトを考える。の2点でした。

将来の萌気会を背負って立つ精鋭27名の職員が参加し、活発な議論が展開されました。

プロジェクトの目的は①萌気会が100年続いていくためのブランド(約束)を考える②ブランドに沿った新規プロジェクトを考える、という2つの目的で行われ1.5日間のグループで話し合いを行いました。ブランド=「顧客への約束」という事で、私の参加したグループは話し合いの結果、萌気会の地域への約束は「心も身体も元気・健康にする」というものになりました。

この「心も身体も元気・健康にする」というブランドプロミスは、萌気会(理事長)が25年以上の時間をかけ、診療所、デイサービス、ショートステイ、リハビリ施設を作り、やってきた歴史そのものだと思います。

ワークショップは、参加者全員が理事長になったつもりで語る。過去ではなく「これからありたい姿」を語るというルールで下記の内容で行われました。

【ワークショップ①現在の萌気会の強み、弱みについて。最大の強みは?最大の弱みは?】

【ワークショップ②ピクチャースケッチ=見える化】

【ワークショップ③新規プロジェクト考案】

【ワークショップ④新ブランド構成】

①では、最大の強みは専門性が多様(医者、看護師、リハ、介護、栄養、保育など)で専門性が高い事、最大の弱みは「理事長色が強い」でした。

②では、ピクチャースケッチの作成、タイトルは「脱!Tさん」となりました。理事長のカラーだけじゃない、巖志先生と若い職員が力を合わせ良いサービス提供する図を作成しました。

③では、私は中高年層(35~55歳)向けの新規プロジェクト担当をさせて頂き、最終的に一押しプロジェクトは保養所プロジェクトになりました。

④では、保養所プロジェクトを元に、ブランド構成を作成しました。

萌気会の顧客は小さい子どもと高齢者が主ですが、中高年層向けプロジェクトという事で、子育てや親の介護で忙しく、社会的にも働く世代の中高年を支援するにはどうすればいいか?→「疲れている人を理解し守れるという萌気会の個性」で「家族の為に頑張っている人を応援する」ために保養所プロジェクトを考案しました。

南魚沼地域の方々が「健康に生きる」という選択をするお手伝いできる企業になり、健康長寿市・南魚沼になると良いと思います。萌気会だけでは政治や都市開発はできませんが、色々な思いを持った企業や行政などが組み合わせられる事もあります。萌気会がどんな思いなのか?を確立するには理事長個人の思いから、萌気ブランドの思いへ変わる必要があるのだと感じました。





社会福祉法人桐鈴会

駅前ハウスの交流スペースについて

社会福祉法人桐鈴会・桐鈴会相談支援事業所 相談支援専門員

うちのう
萌気園訪問看護ステーション「ゆいま〜る」 保健師 社会福祉士 内納 静子

この11月に浦佐駅西口を降りて、すぐの場所に「駅前ハウス」が完成しました。

駅前ハウスは、障害をお持ちの方々が入居し、生活を送るグループホームです。ホーム内には、障害児者相談支援事業所も設置しています。このホームの特徴は、短期入所の体験(お泊り)や緊急時の短期入所ができることです。

もう一つの特徴は、「交流スペース」があることです。

交流スペースは、地域の住民の方々(お年寄りから子供たち、障害があってもなくても)が、ちょっと集まれる場所であったり、1人でも居場所として活用できる場所として、提供したいと考えています。不定期ではありますが、看護師を配置して、健康や医療のこと、介護や福祉の相談窓口としての機能も持たせます。

また、工房とんたんのパン販売も行い、食べながらおしゃべりを楽しめる場所とします。

時々、医療や介護、福祉の勉強会も行います。

その他にも「こんなのあるといいな〜」が、この場所で一緒にできる気軽な地域のスペースでありたいと思っています。

皆様のご意見を伺いながら、取り組んでまいります。

ぜひ、足を運んでみてください。

よろしくお願いいたします。



桐鈴会「駅前ハウス」オープンおめでとうございます。

「駅前ハウス」には改修前、改修中に打合せ等で何度かお邪魔をしておりました。ゆつたりとした建物と、浦佐駅西口の目の前で、とても良い場所にあります。

「駅前ハウス」の特徴の一つには「交流スペース」がある所です。この場所は、お年寄りから子供たち、障害があってもなくても誰もが集まれる場所を提供したいという思いで、桐鈴会の運営スタッフの皆さんが色々知恵を出し合っており、地域とのつながりという面でも、とても素晴らしいことだと思っております。私自身も少し関わらせていただいています。

萌気会の地域活動の取り組みの一つを改めて紹介させていただくと、毎月第4日曜日の9時30分〜12時30分まで「びしゃもん茶房」を開いています。ここはお年寄りやその家族の皆さん、地域の皆さんが気軽に集まれる場所として、今年の12月でオープン3年になります。毎月10人〜15人位の皆さんが集まっています。集まってくれる皆さんでのお茶飲み話はもちろんですが、時には歌や踊りも自然に出てきま

社会福祉法人桐鈴会「駅前ハウス」

交流スペース開設にあたり

医療法人社団萌気会 事務局次長

びしゃもん茶房担当 上村 光男

す。時々高校生のボランティアの皆さんも来てくれます。そこはいつも笑顔が溢れている場所です。「駅前ハウス」から3分ほどの場所にある旧萌気園浦佐診療所のほつと館で開催しています。

今回「駅前ハウス」の交流スペースがオープンすることで、地域の方々にどのような反応があるかとても興味深く思っています。「びしゃもん茶房」との連携や一体となる取り組み、あるいは萌気園あやめ診療所の患者さんが関われる場所(休憩したり気軽に立ち寄れる場所など)に出来るか、可能な限り地域の皆さんが誰でも集える場所に出来ないかと、萌気会の一員としてもお手伝いしたいと考えています。

地域と桐鈴会のつながり、地域と萌気会のつながり、桐鈴会と萌気会のつながり、人と人とのつながり「駅前ハウス」を起点に地域の方々とつながりを今以上に大切にしたいと思えます。今後も今以上に地域の皆様に必要とされる法人であり続けたいと思います。





人生の幸せは後半にあり

～ナイスエイジングのすすめ～

萌気園大和通所介護「地蔵の湯」 佐藤 泰規

「ホリスティック医学」という言葉を初めて聞いた。人間を体・

心・気などの統合体ととらえ、西洋医学のように局部的・理論的に患者を見るのではなく包括的・全体的に人間を見る医学であるという。帯津先生は、ホリスティック医学は人間が誰しも持っている自然治癒力を治療の中心におき、医師や他の治療者は患者の自然治癒力をできるだけ高められるよう支援するという形で治療が行われる医学であり、医療と養生を統合したものだと言明されていた。医療の面では、患者と親身になりライフプラン作りを徹底的に行うこと、ホリスティック医学におけるソーシャルワーカーの果たしている役割がとて大きいことをおっしゃっていた。養生の面では、ナイス・エイジングを果たすための3つの条件として生活費・健康・生きがいの説明をされていた。この3つはそれぞれ関係しあっており、例えば生活費を稼ぐためには健康でなければならず、心の健康のためには生きがいが必要になるといった具合である。

一方、黒岩先生は死については医学だけでなく宗教の面からのアプローチも必要であると考え、医療関係者だけでなく宗教者なども参加した「医療と宗教を

考える会」をつくり活動してこられた。死についての話の中で良寛の死に際の絵を用いて、当時から現在の看取り介護に近いものがすでに存在しており、そこにはあの世とこの世をつなぐために宗教者の介入が必要であると説明された。養生については、熊本の竹熊先生の食養生の考え方に共感し、その考え方からゆきぐに大和病院の薬草園などの地域社会が一体となつての地域全体での養生を行ってきたとおっしゃっていた。

講演の後に行われたお二人の対談を聞き、「メント・モリ」というラテン語を思い出した。意味は「死を忘れるな。人間は遅かれ早かれ必ず死ぬ、だから今をしっかりと生きろ。」だったと記憶している。この言葉はまさにお二人の言っていた死を意識することで生をより良いものにしていくことそのものであると感じた。死は生の一部であり、生によって死は包括されているのである。

最後に、この講演を聞いて私を感じたのは、死のイメージを見直すことで生をより充実したものにする事ができるということである。私もお二人のようにいくつになつてもときめきを忘れず、ナイス・エイジングを果たしていけるように常に今日が人生最後の日だと思いつつながら一杯日々を過ごしていけたらと思う。



人生の幸せは後半にあり

～ナイス・エイジングのすすめ～

萌気園通所リハビリセンター浦佐 諸橋 滉哉



対談：帯津良一先生(中) 黒岩卓夫先生(右)
ファシリテーター：伊勢みずほさん(左)

「今あなたは幸せですか？」と聞かれたらみなさんはなんて答えますか？幸せについての考え方や、思っていることは人それぞれ違うと思います。そこで簡単に幸せ度を上げる方法があります。それをみなさんに紹介します。それは「今を全力で楽しむ」ということです。今日本の社会は何事も批判や非難をしがちです。果たしてそれで幸せになれるのでしょうか。否！どうせそんなことをするのであれば、今を全力でやった方がいいでしょう！仕事を全力でやる！休日を全力で満喫する！全力でこどもと遊ぶ！ということで、今日からみなさんも何事も全力でやっていきましょう！
※この考え方には諸説あります。

浦佐診療所からのお知らせ

- 12月 4日(水) 黒岩巖志医師出張の為、黒岩卓夫医師のみとなります。
 - 12月13日(金) 萌気会行事の為、午後の診療時間帯が変更となります。
- 午後3:00～5:30(インフルエンザ予防接種受付5:00まで)
ご迷惑をおかけ致しますが、ご理解の程よろしく願いいたします。



うちの利用者さん 萌気園多機能介護センター「リゾートあぜ地」 利用者 関せつ子さん

海外に色々行った事があるようですが、どこの国に行かれたのですか？
韓国、中国、ハワイ、アメリカに行って来たよ。アメリカには一人で行って来たんです。息子が学会に行かなければならなくなり、生まれたばかりの孫をお嫁さんと一緒に面倒をみて欲しいと頼まれて行って来ました。17年前の話なのよ。

アメリカに着くまで不安ではなかったですか？

不思議な事に全く不安はなかったわ。自分の性格はあまり苦しめない方だから、人生いつもバラ色(笑)。

今後、海外に行く予定はありますか？

それはないです。私は猫とピアノを弾くこと、「リゾートあぜ地」に通うことが最高の楽しみです。



右の人がこのこいでいるのはセラバイタル。
真ん中の男性陣は順番を待っています。
左の人は「関節可動域360」の運動中。



筋力トレーニングマシン



レッドコード

何をされているか分かりませんか？この男性陣は、大人気のセラバイタル「自転車こぎ」待ちをされています。1人10分、4人目だと30分待ちです。順番が来るのを、リハビリセンターの眺めのいい場所です。待ちます。目の前で行われているレッドコードを真似する人、隣の方とおしゃべりする人、背中から射す暖かい光でうとうとする人色々です。でも大丈夫!!新しい自転車「関節可動域360」導入し、渋滞が緩和されました。それでもやっぱり並ん

じゃう。自転車ファンが大勢いるのです。そこで職員登場。筋力トレーニングマシンに誘導し上手く回そうとしますが、一度座れば動かない。でも、個別リハビリやレッドコードに誘うと仕方なしに移動です。その他にも渋滞するマシンもあります。が、「おまえさんどこの人だ」とか会話が始まり、その季節の行事や野菜の話、嬉しそうに話すお孫さんの事。運動をとおし、待ち時間でたくさんの方と話せる、そんなステキ!!なりハビリセンターの渋滞です。



リハビリセンターの風景 渋滞御免!!

編集後記



コム・ソフィ&ナース 中島 俊明

落ち葉も積もる頃、日毎に寒気が加わる時期となりましたが、萌気新聞をご覧の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

山や海に囲まれた自然豊かな新潟県には、様々な動物が生息しております。自然豊かな豊かさの象徴でもあります「ツキノワグマ」による人身被害がここ数ヶ月世間を騒がせております。10月に限っても300件以上の目撃情報(痕跡後)10名以上の人身

被害が報告されております。被害を未然に防ぐ為に、熊の活動が活発な早朝や夕方の入山や河川敷など、いっどこに現れても不思議ではないので、自身の身は自分で気を付け、熊に遭遇した際は、背を向けず、ゆっくり熊を見ながら後退して、庭先の栗や柿などは放置しないで、早めに収穫してください。山に限らず、今どこに現れても不思議ではないので、皆様十分にお気を付けてください。

